

カトリック

広島教区報

No. 58

カトリック
広島司教区発行責任者
澤野耕司神父編集者
山口道時神父広島市中区福町4-42
広島司教区館内
TEL (082) 221-6017

記念ミサ

世界平和記念聖堂 献堂50周年



聖堂屋根の鳳凰像

建立の思いを新たに

平和を祈る

世界平和記念聖堂が献堂されて五十周年を迎えた今年、一年を通して教区内の各小教区ごとの学習会や巡礼などがなされているが、教区としては八月五日の平和行事における平和祈願ミサと合わせた、献堂五十年記念ミサをもってこれを祝った。平和行事では平和行進や碑めぐり、被爆証言などに加え、聖堂案内に力を入れ、聖堂建築工事に関する写真展示もおこなった。

復興のシンボルから平和の道しるべに

世界平和記念聖堂五十周年を迎えました。

被爆の衝撃や苦しみの中にあつたラッサール神父は、聖地としての平和を祈る聖堂を建てる決意をされました。この決意はどんなに力強く人々の心を打つものであつたか。多数の寄贈品とそれに刻まれた碑文が示しています。同時に世界の多くの人々が、どんなにか平和を願っていたかの証でもあります。



戦争に物心両方を注ぎ込んだ世界はそれらすべてを失いましたが、広島の人々は、戦争がもたらした荒廃の中に毅然として立ち上がったこの聖堂に、人



献堂記念ミサ入堂

五日十九時三十分から、ローマ教皇大使のエンブローズ・デ・パオリ大司教や広島教区の姉妹教区の釜

間の尊敬、広島の人々を感じ取りました。世界平和記念聖堂は、広島の人々への復興の夢を与えるシンボルとなりました。

あれから五十年過ぎて、広島は、被爆の跡をほとんど見ることの出来ない近代的な街に変貌しました。世界平和記念聖堂の街の復興シンボルとしての役割はすでに終わっています。この聖堂の主たる役割である世界平和への道しるべとしての務めは、今益々必要とされています。教皇様が来広され、平和アッピールをなされたことは、平和への自覚を全世界に呼び起こす声になりました。世界平和記念聖堂の次の五十年の歩みが一層平和に邁進するための明確な目印となることを、私は願って止みません。

二〇〇四年世界平和記念聖堂献堂五十周年記念日に

カトリック広島教区長 三末篤實司教

山教区の鄭明神司教とインファンタ教区のマリオ神父、そして国内の七人の司教と約四十人の司祭が、三末篤實司教を主司式として、聖堂にあふれる約八百人の信徒とともにミサを捧げた。



祭壇を囲む司教団



ローマ教皇庁大使パオリ大司教

ミサ開始までの間、聖堂正面には建堂の歩みに関する映像が映された。また、説教の中で三末司教は、聖堂建立の父・愛宮真備(フリー・ラッサール)神父の「世界平和への願いを受け継ぎ、祈りと具体的な活動を呼びかけた。」

〔関連記事二面〕

聖堂見学ツアー



映像コーナー

献堂の歩みパネル展



今年の平和行事は、世界平和記念聖堂の献堂五十周年ということで例年以上の参加者があり、準備や運営に汗を流した実行委員を喜ばせた。

8.5 平和行事



巡礼団を組み日帰り参加

岡山教会からはバスで

平和行進の間、地下聖堂では、原爆犠牲者のための冥福と、世界平和のための熱心な祈りが捧げられていた。

平和公園を出発...



被爆者証言 (長井実貴様さん・翠町教会)

2004・8・6 広島司教平和メッセージ “伝えていかなければならないもの”

「この聖堂は、昭和20年8月6日広島に投下された世界最初の原子爆弾の犠牲になられた方々の追憶と慰霊のために、また全ての国の人々の友愛と平和のしるしとして建てられました。」(世界平和記念聖堂献堂記)

今年、わたしたちは、世界平和記念聖堂献堂50周年の記念すべき年を過ごしています。50年前の1954年は、被爆から9年しか経っておらず、広島の人々はまだ戦争の傷跡に苦しみ、復興と再生のために日夜汗を流していた時です。そんな時に、世界平和記念聖堂は、人類史上最初の原子爆弾の投下によって灰燼に帰した町に現在もなお同じ尊厳さを満ちる偉容をあらわしたのです。これは、当時の歴史状況を考える時に、驚くべきこと、一つの小さな奇跡といってもよいのではないのでしょうか。

自らも被爆したドイツ人宣教師フーゴ・ラッサール(愛宕真備)神父の心に芽生えた熱い願いが、国境を超えて、善意の人々を動かし、実を結んだのです。「さてこの記念聖堂建設を思い立ちましたのは、始めからただ単に記念のためというだけではなく、それよりも世界平和が一日も早く実現するように努力するという目的のためでありました。」とラッサール神父は語っています。「世界平和実現のために」聖堂建設を思い立ったというラッサール神父の心こそ、第一に大切にされ、決して忘れてはならないものです。

1981年2月25日、「平和の巡礼者」として世界平和記念聖堂を訪れた教皇ヨハネ・パウロ二世は、「平和アピール」の中で、「人間とは信じられないほどの破壊をやっつけるものだ」と語られました。たとえば、世界遺産に登録されている原爆ドームは、そのことを心に刻み、再び過ちを繰り返してはいけないという誓いのための記念碑、人間の営みの負の遺産です。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、また、「戦争をひきおこすのも人間だが、その同じ人間が、立派に平和を創り出すこともできるのだという信念」についても話されました。まさに、世界平和記念聖堂は、この真理の目に見える証しであり、人類の使命であり、悲願である恒久平和を実現しようという祈りと決心の結晶です。新しい世界を建設し、ゆるぎない平和を創り出していこうという積極的な意志の表明です。世界中から献金が寄せられ、平和の鐘、パイプオルガン、モザイク画、ステンドグラス、祭壇などが寄贈されて、「祈りの家」が完成しました。

半世紀の間、世界平和記念聖堂は、「全ての国の人々の友愛と平和のしるし」として存在し続けてきました。「ずっと伝えていかなければならないものは、虚偽ではなく真実、権力ではなく正義、憎悪ではなく慈愛である」と聖堂の壁に刻まれています。この呼びかけに、わたしたちは、どのように応えたいでしょうか。世界的な規模の大戦こそ起こりませんでした。今も世界各地で、戦争や紛争が続いています。

世界平和記念聖堂献堂50周年にあたり、ラッサール神父の遺志と聖堂の存在意義を思い起こし、新しい一歩を踏み出す決意を新たにしましょう。世界平和記念聖堂が発信するメッセージ「真実、正義、慈愛」を具体的に実現していく努力を重ねていくことを誓いましょう。

広島教区は、神から「平和の使徒」として働く使命、「平和のために働く幸い」を日々生きる召命を与えられていると考えています。「誰を遣わすべきか」との主の声を聞いて、「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と答えた預言者イザヤのように、わたしたちも「わたしを、平和の使徒として遣わしてください」と主に祈りましょう。

広島教区長 ヨセフ 三末篤實 司教

2004 平和行事 他教区からの巡礼

毎年平和行事には数多くの参加者がある。教区事務局によれば、広島教区内信徒(約三十名)を含む十六組の個人・団体が、幟町(幼稚園・ラサール会館・カトリック会館)、三篠、祇園、翠町、観音の各教会に宿泊し、その数は八月五日の晩が最大で、約二百十名。どのような計画で広島に来ていたのかを探った。

「中学生広島平和巡礼」団約四十名が参加。八十四年から続き二十年目となる。「焦土に咲いたカンナの花」を今年のシンボルとし、「広島の子爆弾投下で犠牲になった人々の叫びを聞き、キリストがわたしたちに示



された『平和』を模索する』ことを目的とする。五日に新幹線を利用して京都発。平和行事参加の他、資料館見学、六日晩の「灯籠流し」を行い、七日に帰京。リーダーの新井由郁さんは、「この巡礼をとおして、子どもたちに平和の大切さをよく知ってほしい」と語る。

大阪教区中高校生による「広島巡礼団」も四十名弱の参加者。四日に大阪・姫路を出発し、往復ともに「JR青春18」切符により山陽本線在来線を利用する三泊四日。「私たちが平和のため何ができるか、共に学び、祈り、行動する」が目標。各行事に参加する前に、必ず事前学習・研究を行う。団長の中出雅大さんは「中学生と高校生では平和の問題に関して認識・理解度の違いがあり、中学生は見聞を中心に、高校生にはより深く踏み込んでもらおう」という。「外食・弁当続きで家の食事が恋しい」という参

加者の正直な声もあった。フランチスカンファミリーの一人(二十代から四十代までの男性八名、女性九名)は、「日本二十六聖人の跡を辿りながらフランチスカン平和巡礼」のテーマのもと、三日に京都に集合し、十日に長崎で解散。今回は七つのフランチ

スコ会修道会の有期誓願者による合同養成を兼ねる。京都では、教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけによる八十六年十月アッシジ諸宗教者平和祈願の集いに端を発する(比叡山宗教サミット十七周年・世界平和祈りの集い)(四日)に参加。広島での平和行事参加の後、長崎に移動し二十六聖人に関係する巡礼地を訪問し、長崎の平和行事にも参加する。参加者の一人の高松修道士は、アッシジマーチ(イタリア各地から三〜四千人

の若者がアッシジを目指して行進し、八月二日のポルティウンクラでの祈りで終了)に参加。帰国直後この巡礼団に加わった。イタリア各地で「平和祈願の折鶴」を作ってもらい、それを今回の巡礼で奉納する。

名古屋教区からは高校生会の二十五名が「広島から未来へ進む道―広島への過去から世界の未来を考えて見ましよう」というテーマで巡礼。四日は名古屋教区センターで司教様から講話があり事前学習。五日にマイクロバスで広島に入り、二日間平和行事に参加、灯籠流しも行う。七日の帰路には、福山ホロコースト記念館見学を行う。

高松教区番町教会の教会学校(小中高)十三名は車



二台で来広、一泊二日。リーダーの三宅望さんは、平和行事にも参加されている溝部新司教様について、「とにかく新しい司教様が来てくださりうれしい、青年とのかかわりに期待しています」と喜びの感想を述べる。

高松教区からは桜町教会のメンバー八名も自家用車で広島へ。

その他横浜教区からは十六名の中高生のグループが三泊、さらに七つの教区内外の個人・小グループが市内教会に宿泊した。

市内教会に宿泊した。

月	日	内容
10月	3日(日)	日本カトリック聴覚障害者の会・広島大会(カテドラル)
	5日(火)	司教顧問会議 14:00
	13日(水)~22日(金)	ポーランド・チェコ・オーストリア巡礼
	15日(金)	召命合同祈りの集い(岡山地区)
	24日(日)	尾道教会公式訪問 9:30
	25日(月)~28日(木)	森山司祭研修
	31日(日)	観音町教会公式訪問・堅信式 9:00
11月	9日(火)	司教顧問会議 16:00
	10日(水)	教区司祭評議会 10:00
	14日(日)	築地教区ミサ 14:00
	21日(日)	三原教会公式訪問・堅信式 9:30
	28日(日)	祇園教会公式訪問・堅信式 10:00
12月	7日(火)	司教顧問会議 14:00
	23日(水)	岡山教会司祭館・信徒館落成式
	24日(金)	市民クリスマス・ミサ(カテドラル)





鄭司教 三末司教 関神父 住田神父

四月二十九日、広島カテドラル（世界平和記念聖堂）で、三末篤實司教司式によって関助祭（三十才・釜山教区）の叙階式が行われ、釜山教区長鄭明祚司教と、神学校で一緒に学んだ先輩や同級生の神父たち十三人も参列し、関司祭の誕生を祝った。

また、アボシ（父）とオモニ（母）をはじめ、家族や信徒代表も韓国から来て参列し、天国的な喜びに満



使徒ヨハネ
ミシビヨングク
関棟國 神父

司祭叙階おめでとう!!



* 사제서품, 민명국사도요한부제, 4월29일 *

たされた。

叙階式後の新司祭の挨拶では、ことばより態度でというところで、座して床に伏す韓国式の最高の礼の形式で、感謝を全身で表現した。

関神父は八月一日より観音町教会に赴任した。

昨年からの松江教会の手伝いをしてきたギャリー助祭（三十才淳心会）が、七月二十四日、フィリピンのイロイロ市ギンバルで、アンジェロ大司教によって司祭に叙階された。

フィリピンで ギャリー神父司祭叙階

叙階式には淳心会の五十人の司祭が参列し、その中には岡山教会出身で、現地で働いている直木神父の姿もあった。



原田神父による授手

簡素な叙階式の中にも、当地の教区の神学生たちによる聖歌隊の奉仕と、女性信徒たちによる心のこもった歓迎もあった。

（報告 原田神父）



父親から奉納を受け取るギャリー神父

♪ハッピーバースデー♪と声高らかに歌いたい（全国フォーラム福山）だった。

このフォーラムのテーマは「地方から繋ごう多文化社会」福山市役所滞日外国人の人々相談窓口の田中さん中心に、北海道から北九州迄の助人に支えられながら、準備が進められた。地元の実行委員の働き、特に全国フォーラム代表村田民雄さんや、事務局の方々の息の合った実務に感謝。予想以上の参加人数に加え、地元行政職員の姿が多数。官・民が一体となった多文化共生社会がもう目の前に来ていることへの確かな手応えを感じた。こんな中

で誕生した「多文化ネットワーク」は、これからの成長が期待される。それと関わっていくことは並大抵のことではないと覚悟する中で、目に見えないもの大切さを忘れがちな日本社会に於いて、多文化共生がどれ程の宝であるか、ということに気づくようにとの呼びかけを感じるのは、私だけだろうか！共生社会は神の国。彼らと私たちの中に働かれる聖霊が共生社会を指し、共にいて、生きてくださるよう、心から祈る。沢山の方々のご協力に感謝するとともに、今後も暖かいご支援をお願いしたい。

一粒のちりめん

広島地区召命巡礼	11:00 出発
九月二十日（月・祝）	12:00 三篠教会で祈りと話
7:00 翠町教会で祈り	12:30 昼食
7:30 出発	13:30 出発
9:00 磯町教会で祈り	14:50 祇園教会で祈り・話
9:30 出発	とミサ
10:30 観音町教会で祈りと話	15:20 解散
	（以上予定時刻）

移住労働者と連帯するフォーラム二〇〇四

福山で五月二十九・三十日 Sr.春日圭子

全国的な青年の活動

広島で二つ

青年連絡協議会と
ネットワークミーティング

『カトリック青年連絡協議会』運営委員会が九月十九日と二十日、鞆町教会を会場として開催される。

これに先立ち、十八日午後から十九日にかけては、『第七回ネットワークミーティング』が開かれ、広島スタッフが準備して、全国の青年が情報交換や交流をしたり、平和や祈り、いのち、宣教、エコロジーなど

のテーマでの分科会形式による分かち合いをする。

日韓学生交流会

二〇〇六年二月広島で

日本側としては、東京近郊を中心に十年間続けられてきた日韓の大学生交流会が、来年と再来年は大阪管区を中心に行われる。二〇〇五年二月には韓国で交流するが、二〇〇六年には広島教区で受け入れ、交流することになった。

来年二月の韓国での交流会参加の募集は名古屋教区が準備しており、間もなく行われる予定。

〔近刊書紹介〕

『典礼ノート』

『ミサの手引き』

『典礼ノート』—ミサの手引き—(B5判、約五十ページ、三五〇円)は、昨年十一月、広島教区から発行されましたが、好評のうちに品切れとなり、第二版(二部改訂)が五月末に再版されました。



ミサの式次第に沿って、ミサについて分かりやすく解説された冊子です。これは、『カトリック新聞』に連載された「典礼をやさしく学ぼう」(白浜満神父著)とR・フェイビング神父著『聖餐と愛餐』の二者をもとにして、イラストをまじえ、読みやすくまとめられています。

編集者の松岡玲子さんは、この他に『聖書ノート』(広島教区発行。A・B・C年用既刊。B5判、各約一一〇ページ)の編集もしています。

発行所 サントワロ ユーロ11 聖書図書部
〒730-0855 広島市南区南大蔵二丁目1番1号

計 報

マヌエル・ギリエン神父

(イエズス会・下松教会)



七月二十七日、姫路聖マリア病院で慢性腎不全のため帰天。享年七十三才。

師は一九四七年イエズス会入会、五十六年来日、六十二年司祭叙階後、山口地区の小教区で働き、主に青少年の宣教司牧に尽力してきた。

どんな教区よその教区⑫
長崎教区

長崎教区は今、韓国との交流が「熱い」。この5月、長崎県小浜町雲仙で行われた「雲仙殉教祭」に韓国から司祭を含む14人の巡礼団が参列した。この日は、同地方に大雨洪水警報がでていたが、信徒は1000人を超え、韓国巡礼団は、殉教者を尊敬する心に触れ大変感動したという。

「怒りの広島」「祈りの長崎」とともに59年目の原爆忌。長崎原爆の日の8月9日、長崎教区主催の「平和祈願ミサ」が浦上教会で行われた。ミサを前に高見三明大司教を表敬訪問した韓国の李漢澤(イ・ハンテク)司教(ソウルから独立した議政府・ウィジョンブ初代司教、10月15日着座)を代表とする巡礼団60人余が参列した。1800人の信徒で埋まる聖堂、韓服(ハン・ボク)に身を包んだ女性の祈る姿は際立ち、日韓の絆を深く感じた。

長崎教区は1999年、福岡市で行われた西日本宣教司祭大会で講演された金壽煥(キム・スーハン)枢機卿の韓国における福音宣教の話題に刺激をうけた。なかでも宣教の主役は「小共同体」であることに着目、これまでに韓国へ司祭、修道者、信徒など9回、延べ125人を派遣した。管内では今、その運動の芽生えを期待し、土壌改良の種蒔きが始まった。

また、教区はこの3月、小教区、地区、教区が一体となるための検討期間として「小教区組織見直しプロジェクトチーム」を作る。さらに教区は、福音宣教の使命を果たすために教区本部を置き、執行機関となる11委員会を01年度からスタートさせた。現在、活動は3年間の第1期を終え第2期に入るが、各委員会でも拍車がかかった。

来年は被爆60周年、教区では長崎から世界へ「平和の祈り」を発信する斬新なアイデアが練られている。

(深堀柱)

若者たちの

平和行事

8・5イン・ヒロシマ

お酒も飲まず…

五日、六日の夜も泊り込み、まじめに取組んだ青年たち。参加者は九人で、福岡、徳島、和歌山からも。

「参加して初めて知ったことがたくさんあった。とろう流し、聖堂案内が良かった」。「被爆者証言はリアルで、本で読むよりも



アンニョンハセヨ（こんにちは）！

私は二〇〇〇年に叙階されて、今年五年目に入る張容辰（ジャン・ヨンジン）ヨセフ神父です。



〈43〉

ずっと感じた」。「献堂五十年。織町教会の信徒がうらやましい」。「中国の反日感情を考えながら、折りだけでなく歴史を振り返ることとは大切だと思った」。



8・5 in HIROSHIMA の参加者

廿日市の

「ヨン様…?」

廿日市教会

張容辰神父

二〇〇二年二月に釜山から広島に来て、私の短い神父生活の半分以上の年月をこの広島で過ごしました。

当初は分からないことや知らないことも多く、また韓国と日本の教会の事を比べたりして、とても悩みました。

しかし、今は日本の生活にも慣れ、知らないことや

高校生・大学生もはじめて参加しました

青年のグループとは別に、高校生と大学生も合宿して、平和行事に参加した。参加した女子高校生は次のように語った。

「碑めぐりのとき、県外からの参加者が新鮮な反応を示していたのが印象的でした。広島に住んでいると、身近にありすぎて、大切さが分からなくなっていました。…誰だつて平和

分らないことは少なくなりました。韓国は韓国、日本は日本、それぞれのありのままを受け入れればよかったのに比べることによつて、自分を苦しめたことが馬鹿なことだと気付きました。

私は八月から廿日市教会で新しい生活を始めました。この苦しんだ経験を経て、今新しく赴任したこの廿日市教会では、私は一つの夢をかなえたいと思います。

それは、廿日市の「ヨン様」になりたいということ

がいいはずなのに、どうして悪い方に進むのか不思議です。そして、今この瞬間にも、戦争に遭っている人たちがいるのに、自分はこの人なのんびりしていいのかと思います。早く人類が賢くなって、世界から戦争がなくなりますように。」

錬成会
ここから広げよう
世界へ 平和を

八月十日から十二日、細江教会と下関労働教育セン

です。名前の中にも「ヨン」という字があるし、顔もハンサムと言われるから…。ハハハ…。(冗談ですよ！)

「ヨン様」の影響で韓国に興味を持ち、韓国について知りたい、韓国語を学びたいという人が多くなりました。

同じように、私と出会うことによつて、イエス様の事をもっと知りたい、信仰の道を歩みたい、と思つてもらえたらと願っています。



関門人道トンネルを歩きました。



ザビエル上陸記念碑前で



酷暑の夏。照りつける太陽の下、あの日进行、世界平和記念聖堂のこれまでの五十年を思う。平和への祈りの聖地として、これを預かるものの責務を痛感する。